

# 令和5年度第2回長浜市地域公共交通会議 会議録

日時 令和5年9月22日(金) 14:45~16:37

場所 長浜市役所本庁舎1階 多目的ルーム1・2

出席者  
出席：轟会長、江畑委員（副市長）、田中委員、谷川委員、清水委員、  
角川委員、野村委員、北村委員、木下委員、喜田委員、辰野委員、  
脇坂委員、北川委員、服部委員  
（以上14人）  
欠席：鴻野委員、福島委員、田村委員、藤田委員、朝日委員、松尾委員、  
野口委員、糸委員  
（以上8人）  
傍聴者：1名  
事務局：都市建設部 嶋田部長、一居次長、都市計画課 益田課長  
交通対策室 岸田室長、隼瀬係長、福井主事

【司会：岸田室長、説明：岸田室長】

## ■会議録

### 1 開会

会議成立の報告

あいさつ 部長（内容省略）

### 2 協議事項

（1）長浜市地域公共交通会議の策定について（経過報告）

#### 【事務局】

資料に基づき説明（内容省略）

#### 【会長】

ご意見、ご質問があればお願いします。

#### 【委員】

企業用送迎バス等の利活用の検討は削除となっているが、長浜市において企業用バスはあまり運行していないのか。

#### 【事務局】

事務局で把握しているのは、駅から工場まで運行する企業用送迎バス、自動車学校の送迎バスだけである。

#### 【委員】

我々が抱える大きな課題の中の1つに運転手不足があるのだが、今回出していただいた施策6-④「事業者間連携による運転士の確保・育成」のイメージがわからない。実施主体、取組のスケジュールともに漠然としているので、もう少し説明願う。

#### 【事務局】

昨年度実施した交通事業者のアンケートから多くの事業者が運転手不足や高齢化に悩んでいることがわかり、解決に向けて取り組む必要があると思い、今回新規で施策を上げさせていただいた。事業者合同での就職説明会や職場見学会、SNS を利用した従業員募集などを想定しているが、具体的な施策の検討はこれからである。

#### 【委員】

できれば、実施主体に長浜市を入れてほしい。我々協会でも、国の補助金をいただきながらYouTubeの広告動画を作成することを計画している。また、事業者の希望にもよるが、合同就職説明会も手法の一つだと考えているので、市もご尽力いただきたい。

【会長】

福祉有償運送なども含めて運転手不足をどのように市が対応するのか、検討を進めていただきたい。

【委員】

昨年9月から1年間、乗降人調査をした結果がでたので、後日事務局に資料を提供させていただく。病院の休診日には乗降者は下がる傾向はあるものの、余呉地域には特殊な企業はないので、一定で推移している感じである。

【委員】

将来の地域公共交通ネットワークとしてそれぞれの交通手段を位置づける表において、タクシーは地域公共交通の枠ではないその他と位置づけられているが、国においては2009年に特措法でタクシーは公共交通だと謳われていることをご認識いただきたい。先ほど委員からご意見のあった施策6-④について、取組のスケジュールが5年間継続的に協議・検討となっているのを見ると5年間は何も動かないのではないかと感じてしまう。ここは待たなしに動いていかなければいけない施策だと考える。また、施策5-②「オンデマンド交通におけるA1の活用」についても、5年間継続的に先進事例の調査・研究となっているが、他の市町では積極的に進めているところもあるので、調査・研究を何年かした後は何らかの取組を始動していただきたい。

【事務局】

タクシーの位置づけについては、市からの財政支援をしていないという意味でその他とさせていただきますが、ご意見を踏まえて再度検討する。6-④および5-②のスケジュールのところは、取組が動き出せば実施へと進めていきたいと考えているので、表現の仕方考えさせていただきます。

【会長】

実際運用するところまで書くのは難しいにしても、長浜市では実証実験などするケースも多いので、何らかのアプリをしながら進めていただきたい。

【委員】

継続的に協議・検討とした場合、PDCAはどうなるのか。PDCAが上手く回るような取組を期待する。

【委員】

ここ最近観光客が増えてきたが、駐車場が少ないので、観光客が利用できる一日乗り放題や乗合タクシーなど利用して来ていただくとありがたいが、どのように周知されているのか。

【事務局】

長浜駅の湖国バスの案内所、木ノ本駅の観光案内所で乗り放題券を販売しており、ポスターを貼り周知している。

【委員】

計画を策定する際、どのような形で委員の意見が反映されるのか知らなかったが、意見への対応状況を作成いただき、きちんと反映されていることが判りやすくまとめられていてとても良かった。一日乗り放題はいい取り組みだと思うので、委員の一人として口コミで伝えていきたいと思う。

【委員】

現場にいて一番苦しいのは運転手の確保で、2種免許を取るのに多額の費用が掛かるために就職に結びつかない。北部は特に人口減少や高齢化が顕著となっており、何らかの手立てが必要である。長浜市でも運転手を確保するための戦略を考えていただきたい。

【委員】

2種免許取得に費用が掛かることについては国も把握しており、今年度から国も補助金を出すことにしているので、残りを市が出すようにするなどしていただければ負担が軽減されるのではないかと。

**【委員】**

2種免許取得が厳しくて費用が掛かるというのは、それだけ安全確保に教育が必要だということである。ライドシェアの話もあるが、普通の免許と2種免許には安全面で大きな違いがある。

**【委員】**

デマンドタクシーの現状についてだが、運転手の高齢化が進んでおり弊社でも安全講習に時間もお金も使っており、高齢化が一番の問題である。デマンド利用者について、回数券の購入も一定あるが、最近はPAYPAYの利用が多くなってきた。利用促進に関しては、登録がネットからできるようになったことで、登録者が増えたくさんの方に利用いただいている。企業努力としてなるべく待たさないよう心掛けているが、利用者が増えたことで乗合が増え、決まった時間に来ないというクレームがある。便利に使っていただきたいが、乗合タクシーの制度を理解いただいたうえでご利用いただきたい。

**【事務局】**

利用者には制度をしっかりと伝えていきたい。

**【委員】**

今年度、利用者が戻りつつあり、特に貸切バスが動きかけている。この業界に人が集まらないのは業務量が多いことが1番の要因だと思う。弊社では高卒の乗務員を確保し、3年間かけて運転手に育てている。既存の乗務員の離職率を下げるには、所得水準と休暇の付与だが、運転手の人件費を削ることができない中で、利用者数や収支率等の数値目標との関連性も含めて悩ましいところである。バスに乗るハードルとして運賃として現金を持つ煩わしさや、バス停で待ってバスがいつ来るのかといった不安があり、敷居の高さにもなっている。県下でも南の方はJRに乗車される方の9割以上がバスに乗車されるので、JRのICOCAがバスで使える仕組みを彦根管内まで導入しており、全体収入の8割以上がICOCAの利用である。また、接近情報については、費用対効果はなかなか見えづらいが、利用者にとっても事業者にとっても有益であるので、将来的には検討していただきたい。計画の中で利用者数を維持するという高い数値目標を挙げるのであれば、もう少し思い切った施策をいくつか入れてもいいのではないかと思う。一日乗り放題チケットも10月から販売されるが、まずは公共交通に触れていただく機会を設けることが利用促進にもつながると思うので、周知していきたい。

**【事務局】**

一日乗り放題については、10月から実証運行を開始するが、その中でアンケートを実施するので、結果を分析し次につなげていきたい。

**【委員】**

乗合タクシーを利用しバス停から病院まで500円で行くことができるが、バス停から自宅までが大変な方もいらっしゃる。他の市町では自宅から目的地まで乗車できる乗合タクシーもあると聞くと、長浜市でもそのようにできないか。

**【事務局】**

乗合タクシーの制度として停留所間の運行となっているため、ご自宅から停留所まではご自身でお願いしたい。

**【会長】**

介護度にもよるが福祉の範疇かと思う。現在、長浜市ではどのくらいの事業者が福祉有償運送を運行されているのか。

**【事務局】**

5事業所である。

**【委員】**

駅から自転車で通っているが、駅の駐輪場がいっぱいである。高校生が公共交通機関に切り替えることにより、駐輪場に余裕ができたり、歩道もより安全に利用できるのではないかと思うので、高校生が何を望んでいるのか興味がある。また、駅から離れた場所にある高校

の生徒がどのような手段で通学しているのか分かることで、道路整備の優先順位が変わるので、また情報を提供いただきたい。

**【事務局】**

高校のアンケートは公共交通に関する設問ばかりなので、道路整備にデータが活用できるかわからないが、結果については取りまとめたうえで提供させていただく。

**【会長】**

1 km圏内は徒歩で、4 km圏内は自転車で、それ以上は公共交通でといった理論上の考え方はある一方で、1 km圏内の人でも自転車を使いたい方もいる。湖北地域は道路の通行帯の問題で自転車は大変危ないと認識している。移動手段や交通手段をどのようにしていくのか考えるときに、併せて道路の整備について考えていくことも大事な視点だと思う。

**【副市長】**

公共交通の利用促進や利便性の向上に向けた思い、運転手の確保が喫緊の課題であることがわかったので、皆さんのご意見を参考に利用者にも事業者にも喜ばれるような交通体系の構築をめざしていきたいと考える。

**【委員】**

冒頭の事務局から計画には夢の部分も盛り込んでいるとの説明があったが、具体的にはどの部分か。

**【事務局】**

施策5のキャッシュレス化やオンデマンド交通におけるAIの活用については、これまで未着手であった部分であるが今回計画に盛り込み、進めていきたいと考えている。また、施策3-③貨客混載への取組に向けた調査・研究については、運輸事業者と交通事業者が相互利益の関係になるような取組だと思っているので、こちらについても進めていきたいと考えている。

**【会長】**

夢の部分はとても大事な部分だと思うので、実際にどのように展開できるかわからないが、調査研究という形ででも計画に盛り込むこと、また何かアプライするチャンスが出てきた時にすかさず手を挙げるのが大切だと考える。また、長浜中心部のエリア外でスローモビリティなど補完するような交通が考えられないか、福祉有償運送など配慮の必要なエリアや人に対する交通をどのように考えていくのかなど、事業者や市民の視点、福祉や観光からも参加していただく形で議論の場を作っていただきたい。それが、またまちづくりにも繋がっていくと思う。現在、総合計画はどのような段階であるか。

**【事務局】**

総合計画は10年の基本構想であり、2年・4年・4年の基本計画があり、第3期の基本計画の1年目である。

**【会長】**

KPI（重要業績評価指標）でいくと、達成状況は厳しいのか。

**【事務局】**

交通施策だけでいうと、第2期の評価はコロナのため当初目標は達成できていない。

**【会長】**

交通はKPIをなかなか達成できない分野の中で、KPIが実現できるような魅力的な施策にテコ入れできているのか問われる話だと思うので、状況に合わせて検討できるよう、継続検討という形で残しておくことはとても大事なことだと思う。

**【事務局】**

数値目標を定める中である程度堅実な施策を挙げているが、夢のある話としてLRTの導入について議論もしていた。実現可能かといえば難しいが、実際富山県では実施しておられて、成果がまちづくりとしても出ているということを見ると、総合政策レベルでの検討になるかと思うが、不可能と決めつけて止めずに、どんどん出していくことが大事であると考えている。調査・研究の過程も面白く、夢のような話を考えているまちを発信することが若者の

移住・定住につながるかもしれない。考えているまちが選ばれるまちなのではないかと思う。

【会長】

都市計画法の18条の2の市町村の都市計画マスタープランは計画に書き入れておかないとやりたいことをやった時に不整合が出るため、可能性があるものはできるだけ計画に盛り込むことが大事なのだが、地域公共交通計画の性格はどのようになっているのか。

【委員】

地域公共交通計画は、どちらかというところではフワッとしたもので、その他に利便増進実施計画などがあるので、そちらで実行可能なものを作成していくような形になる。

【会長】

機会があった時にはいつでも乗れるよう手を広げておいた方がいい。

【副市長】

計画の中にあらゆることを書いておくことは大事なことで、まちを明るくする豊かにすることも盛り込んでいきたい。

【会長】

協議事項は以上となるが、全体をとおして何かご意見やご質問はないか。  
特になし。

3 その他

【事務局】

次回の会議については、11月中旬頃に書面での開催を予定している。

4 閉 会

(終了)